

中長期目標 (学校ビジョン)		夢や希望に向かい 自分らしく輝いて たくましく生きる力を育む。		今年度の 重点目標	《キーワード》 「可能性」				
年		度		当		初		(9)月	
評価 項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	到達状況	評価	改善策	
1 学習指導・授業改善に努める【授業実践の充実】	小学部	○自分らしさを発揮し、願いを抱き意欲的に学ぶ授業づくり	○感染症予防対策を徹底した上で、日常的に授業を見る機会を設定し、学び合える環境作りが必要である。 ○教材教具や学習環境の不具合に気づいても、物品の確保や改善に時間がかかるため、そのままになっていることがある。	・教師が他クラスの実践を参考にしたり、教材や教室環境を改善したりしながら授業実践する中で、児童が自分らしさを発揮しながら学習している。	・学部の勉強会を副学部長が中心となって企画する。 ・学部長が教材教具や学習環境の不具合を聞き取ったり、気づきを書き込む用紙を回覧したりする。 ・学部長が中心となって、改善事例を記録する。	・学部の勉強会を通して、他クラスの様子を知ることができたが、回数が限られているため、十分とは言えない。他クラスの授業実践を見る機会が少ない。 ・教材教具や学習環境の不具合について、報告しやすい環境となっている。 ・改善事例の記録はできていない。	C	・他クラスの補助をする際や、勉強会を通して他クラスの実践、教材や教育環境の工夫を参考にする。	
	中学部	○一人一人の課題や教育的ニーズに応じた授業づくり	○実態把握のもと教育的ニーズを共通理解効果的なICT活用や教材・支援、授業展開の工夫など、継続して取組み、主体性を促すとともに学習の理解を深めることが必要である。	・いろいろな学習に、興味や関心をもって、生き生きと意欲的に取り組んでいる。仲間や教師とかかわり合う中で、さらに発展向上しようとしている。	・教師間で、放課後等に授業づくりや生徒の成長を話題にし、頻繁に情報交換を行う等、生徒の実態把握や授業の充実に努める。 ・教材の工夫や体験・集団活動の工夫、体験・集団活動等にICTを活用する等、授業の改善・充実に努める。	・学部会、子どもを語る会、単一・重複会で、生徒の実態等について情報共有することができた。授業づくりについて、意見交換したり教材研究の時間を確保したりすることは難しかった。 ・集会などの合同授業や遠隔授業、また個別でのリモート利用など様々な場面でICTを活用して授業の充実に努めた。また、生徒の実態把握をもとに、各クラス、各教科で教材の工夫等に取り組んでいる。	C	・授業づくりや教材の工夫、生徒の様子について情報共有や意見交換する場を設ける。(単一会、重複会の回数や内容を検討する) ・ICTの利用や教材、支援等について研修を行い、知識技能の向上に努め、日々の実践に活かす。	
	高等部	○キャリア教育の視点に立った授業づくり	○キャリア教育の視点について学部会で確認し、単一会、重複会等で授業やそれぞれの課題について話し合う機会を設けている。内容によって会のメンバーや方法を工夫しながら開催していく必要がある。	・学習に意欲的に取り組んでいく中で、キャリア教育の視点に立ったそれぞれの「つきたい力」を身につけようとしている。	・キャリア教育について共通理解をする機会を設ける。単一会、重複会や子どもを語る会等を月1回以上開き、情報交換をしながら授業改善に努める。	・単一会、重複会や子どもを語る会等を開いて情報交換をし、授業改善に努めてきた。 ・まだ十分とは言えない部分もあり、今後さらなる授業の充実にめざして工夫を重ねていく必要がある。	B	・現在実施している会を大切に継続していく。 ・授業検討会を活用したり会の内容をよりニーズに合うものにしたりするなどの工夫を重ねていく。	
	教務部	○学習に関する諸計画の在り方についての整理	○昨年度職員アンケートをとり、作成している諸様式の課題や改善点についてまとめた。 ○諸計画の様式の改訂に向けて必要な研修や共通理解の会を計画的に行うことが必要である。	・児童生徒への指導の元となる教育支援の計画と個別の指導計画のつながり、評価について整理され、新様式の素案が作成されている。	・とりよまなびのプロジェクトで、改訂に向けて取り組む内容について関係する分掌と検討・整理を進める。 ・諸計画の見直しについて、改訂するポイントやメリットについて共通理解の会を開催する。 ・他校の情報も収集し、本校で活用しやすい様式を考案する。	・とりよまなびのプロジェクトを開催し、書式の改訂に向けて関係分掌との役割分担や諸計画の作成の意義などの整理等、協議を進めた。 ・教務部内でもプロジェクトでの検討事項について話し合い、改訂の意図や方向性について確認、整理ができており、1学期末の通知表改訂等に活かされた。 ・新様式への検討は進んでいるが、職員への説明が必要。	C	・学びのプロジェクトでの協議内容について職員に周知していく。(職員会や掲示板DB、終礼などの活用) ・実際に様式の試案を作成し、職員会で提案しながら学部での意見を吸い上げ整えていく。 ・作成の時期や手順についても具体的に検討する。	
	研究研修部	○主体的な学びを育む授業づくり	○関係する分掌と連携を図りながら、計画的に研修を行ったり、本校の授業づくりや「合わせた指導」における年間指導計画の修正に取り組んだりする必要がある。	・児童生徒が主体的な学びを実現することができるよう、児童生徒の学びの姿を3観点での目標設定や評価に具体的ににつなげた授業改善や年間指導計画の作成が行われている。 ・研修2回 ・校内授業研究会各1回(単一・重複)	・児童生徒の主体的な学びの姿をイメージし目標設定や評価に活かすことができるよう、学習指導要領に関する研修を講義と演習を組み合わせで行ったり、授業研究会の実施の仕方を工夫したりする。 ・グループ研究会の時間を有効に活用しながら、授業改善に向けての話し合いや年間指導計画の作成を行う。	・研修動画の視聴と演習を組み合わせ、研修を活かした実態把握表に沿った教育的ニーズの検討を行った。話し合ったことを児童生徒の主体的な学びの姿や支援に活かすことができてきている。 ・グループ研究会で取り組む内容を明確にして計画的に話し合いを行うことで、授業改善や年間指導計画の検討を行うことができていく。	B	・校内授業研究会の実施の仕方をグループ毎に工夫し、日々の授業実践を基に3観点での目標設定や評価について話し合うことで、共通理解や授業改善を図る。 ・グループ研の時間を有効に活用し、授業改善に向けての話し合いや年間指導計画の作成を行う。	
自立活動部	○児童生徒の実態に応じた、自立活動の適切な目標設定と指導内容の充実	○単一学級の児童生徒の目標設定において、チェックリストが作成されたので活用することが課題となっている。 ○職員の専門性向上のための研修が必要である。	・自立活動目標設定シートを活用した目標設定について、7割以上の職員が昨年度より理解できた、もしくはスムーズだったと感じている。 ・主催した各種研修会の内容が、教職員にとって日々の授業実践に役立つものであったと感じている。(7割以上)	・自立活動目標設定シートの活用に関する研修を開催する。また、目標検討会時に自立活動部員が助言をできるようにグループ編成を工夫し、アンケートを実施する。単一学級においては、児童生徒に応じたチェックリストを活用できるようにしていく。 ・MANABIを年4回以上発行するとともに、とりよ夏季セミナー、お役立ち勉強会等、実践に役立つ研修会を年5回以上実施し、アンケートをとる。	・目標設定シートの活用についての研修会を計画したが、新型コロナの関係で一部実施できなかった。特に本校勤務年数の浅い職員への対応が必要である。 ・実施できた研修会においては、概ね授業実践に役立っており好評であった。	C	・実施できていない研修会について感染状況や行事等を鑑みて計画する。グループ検討会において、教務部と連携して自立活動部員が入れるように配慮する。また、来年度の目標設定に向けて、単一学級でも自立活動チェックリストを利用するので、考え方や使用についての共通理解する場を設定する。 ・引き続き、実践につながるような研修内容を精選して行う。また、事後のアンケートで振り返りを行う。		
	情報教育部	○ICTを活用した授業実践の推進と充実	○現在使用しているアプリに加えて、ニーズが高い教育関連に関するアプリ、Google suite、Google meets等にも対応し、遠隔授業等にも活用できることが喫緊の課題となっている。	・遠隔による授業、会議、課題対応等に対応したアプリの操作を行うことができる教員が8割以上となる。	・関係機関と連携し遠隔による授業、会議、課題対応等に対応したアプリに関する全体研修会、個別も含めたミニ研修会(お役立ち勉強会)を実施する。 ・iPadを使用した遠隔による情報発信、テレビ会議等の実践例の紹介を行う。	・ICT支援員を講師に招き、遠隔授業や動画・課題アップロード等に焦点を絞り、全体研修会を実施した。 ・遠隔による授業、交流会等実践が増えてきている。Google meet、Google classroom等のさらなる利活用に向けた取組みを行っている。	B	・Google classroomの利活用が推進できるよう内容、焦点を絞った研修会を実施していく。	
2 児童生徒へ	全学部	児童生徒が安心して学べる環境作り	日常的児童生徒の心身の状況について情報交換、情報共有する体制ができてきている。しかし、新型コロナウイルス感染症への対応等、絶えず情報を更新しながら対応が必要である。また、学部全体で児童生徒を見ていくような組織的な体制作りも必要である。	・衛生管理、室温等学習に適した教室環境ができていく。 ・児童生徒の心身の状態の変化について関係職員が共通理解し、適切に対応している。	・清潔で安全な環境づくりについてポイントを適宜周知する。 ・清掃、消毒等感染症対策マニュアルに沿って正確に実施する。 ・児童生徒の実態に応じた環境改善について職員で情報交換をする。	・日々の清掃や、消毒等感染症対策マニュアルに沿った対応等、安全管理に努めている。 ・学級担任間で、児童生徒の体調や教室環境等について、情報交換を行っている。	B	・現在の取り組みを継続する。 ・定期的に環境改善やマニュアルの確認などの機会を設定する。	

3 「チームとりょう」を推進す【連携・協働・業務改革】	の健康と安全を守る【QOL】	保健安全部	○児童生徒が安全に快適に学校生活を送ることができる環境整備と体制づくり ○昨年度は新型コロナウイルス予防の為、予定されていた研修や訓練が予定通りに実施できず、現状に応じた活動となった。例年通りの開催とならなかったことで、新たな取り組みができたり、検討事例が明確となった。した。 ○校舎増築や工事に合わせ、安全で健康的な学校生活を送ることができるように、救急体制や感染予防対策等、今後の危機管理についての周知徹底を行っていく必要がある。	・個に応じた緊急救急体制が学級・学部・学校で共通理解され、危機管理意識を持ち、環境や体制が整備されている。 ・地震、火災時の避難経路や場所、児童生徒の引き渡し等、救急体制が確立している。	・ヒヤリハット事例を各学部で周知したり、研修や各種訓練、救急・防災ワーク等での課題を取り上げたりして、安全面・健康面に留意した対応を行う。 ・「今後の鳥養の防災の在り方」での案件を検討し、救急体制を決定する。 ・総務と連携して防災委員会を開催する。	・ヒヤリハット事例を学部に周知できた。共通理解事項や協力してほしいこと等を事例の筆がったクラスに伝えることができていた。ヒヤリハット事例の記録を随時更新し、再確認や啓発を行うことで、教職員の意識を変えることへと繋がった。 ・コロナ禍で研修や訓練等の制限がある中、できる方法を考え、児童生徒や学級の事態に応じた対応を検討した。個に応じた緊急時対応マニュアルを見直したり、避難方法や避難経路を確認したりすることができた。特別教室に備蓄品を配備した。又、防災学習を行ったことで、児童生徒の気づきから学習が深まったり、普段の会話の中でも防災について考えようとする姿が見られた。 ・防災委員会を開催し、マニュアルや非常持ち出し品の確認がなされた。備蓄の場所、津波想定時の行き先、引き渡し訓練実施については、総務部との連携が必要である。	B	・全教職員が危機管理意識が持てるよう、学部会で継続的にヒヤリハット事例を紹介したり、気を付けていること(0レベル事象)を出し合ったりしながら、事故を防ぐ。 ・避難訓練→学校で滞在一引き渡しを想定した訓練も今後は必要。備蓄の場所、津波想定時の行き先、引き渡し訓練等について、防災委員会を再度開催し、教職員で確認していく。 ・総務や学部、各委員会等との連携が不可欠。協力しながら十分な取り組みを行っている。
	小学部	○保護者や関係機関と連携した指導支援の充実とクラスを越えた協力体制づくり	○個人情報に留意しながら、回覧・PC上の保存情報共有の仕方を工夫することが必要である。 ○グループ学習や授業を見合うこと等を通して、お互いの授業力を高め合う機会を増やすことが必要である。	・学部職員が児童生徒の目標や課題、学校生活の様子を共通理解し専門性を活かしながら支援する中で、児童が安心して学校生活を送っている。	・小学部児童の学習・生活の目標や課題について一覧するシートを作成し、小学部職員間で共有する。 ・他クラスの児童の様子を知ることができるよう、余裕がある場合で隣のクラスの補欠等に入るようにする。 ・授業の様子の写真を共有する。	・学習・生活の目標や課題の一覧シートは作成できていない。 ・学部会を通して他クラスの様子を把握するよう努めているが、目標や実態までは十分に把握できていない。 ・授業の補欠等で昨年度より他クラスに入ることができていた。	C	・学習の様子に分かる写真の掲示を心がける。 ・研修会や学部会での情報交換の機会を活用して、児童の実態や支援目標等について共通理解を図る。 ・学部の教員が児童の支援計画や指導計画を参照できるよう、シートを作成し、学部職員内で共有する。
	中学部	○自己実現に向けた指導・支援を行うための連携の在り方	・コロナ禍での進路学習について、さまざまな状況を想定した学習内容を考え、計画的に実施することが必要である。 ・生徒本人や保護者のニーズを聞き取り、必要な情報提供を行うことが必要である。	・進路学習をととして将来の姿をイメージし、今すべきことを教師とともに考え実践しようとしている。	・生活年齢に応じた対応を行うとともに学年が上がるに従い、社会参加をより意識した取組を心がける。 ・生徒一人一人の病気や障がいの状態や特性に応じた適切な支援を行うために、保護者・関係機関との連携を深める。 ・進路指導主事と連携して、個々の実態を踏まえた進路学習(合同、個別)を計画し、実施する。	・進路説明会を実施したり、3年間を見通した進路学習の全体計画を見直したりすることができた。その計画に沿って生徒の実態や学年に応じた進路学習に取り組み始めている。(単一) ・保護者や関係機関と情報交換をし、連携することができた。日々の学習で、高等部、社会参加を意識した取り組みを行った。施設利用体験に向けて計画的に情報発信していくことに課題があった。(重複)	C	・施設利用体験や職場見学は、コロナ禍でも取り組める内容を考え実施する。 ・進路学習や保護者への進路情報の提供等について検討する会をもち、計画的に実施する。 ・今後も、保護者・関係機関との連携や社会参加を意識した取り組みに心がける。
	高等部	○確かな進路実現に向けての支援体制づくり	○個々のニーズに応じた情報の収集をし、それぞれの進路に関して、適切な指導や支援ができるように努めている。	・個々のニーズに応じた進路情報をもとにした体験等を通して、生徒が希望する進路実現に向けた学習に取り組んでいる。	・より適切な進路指導ができるように、進路に関する情報共有の場を年4回以上設ける。 ・個々の進路に応じた具体的な計画やスケジュールをもとに、保護者や関係機関と連携をとりながら、適切な進路指導を進めていく。	・懇談や支援会議等を設定し、本人や保護者のニーズに合った情報共有や進路指導に取り組んだ。 ・関係者間での共通理解が難しく、進路指導がスムーズにいかない面もある。	C	・保護者や本人の聞き取りや客観的な情報など、いろいろな観点から指導を進める。
4 善の業務改善	支援部	○地域におけるセンタの機能の充実 ○一人一人のニーズに応じた校内支援の充実	○感染症予防の観点から、例年行っている研修会を教育相談に代えて行ったり、教育相談に出向くことができない時はやむを得ず延期、中止したり、リモートで実施したりし、地域のニーズに充分応えることができなかった。感染症等の状況に合わせて、できる形を工夫して地域のニーズに応える必要がある。 ○ニーズに応じて関係機関と連携を図り、外部専門家から適切な支援の仕方について学んだり、支援会議等で適切な支援について検討しているが、その後の経過についてや再検討の必要性などの把握が十分でない。	・エキスパート教員や学部主事等と連携し、適切な支援方法の提供や就学相談を行う等、地域のニーズに応えている。(地域支援) ・一人一人のニーズに応じて、関係機関等との連携を図り学んだ支援方法等や、検討した取り組みが、日々の指導に活かされている。(校内支援)	・地域の病弱・肢体不自由学級の担任のニーズに合った研修会を行う。 ・教育相談で使用できる、本校の児童生徒の学習の様子がわかるような動画を作成する。	・参加者のニーズに合わせた内容の研修会を行ったが、日程が市内の行事と重なっていたり、リモートで行ったため参加者同士の情報交換が行えないことがあった。 ・コロナ禍で実際に見学できない各学部、各コース授業の様子の動画を作成し、体験入学、教育相談で活用した。 ・関係機関とつながっている事例について、担当者が継続的に担任と連絡をとったり、振り返りのアンケートをとったりして経過を把握することができているが、担当者にとどまっている。	C	・地域の行事を確認し日にちを設定する。研修会での情報交換をリモートの場合も設定する。 ・研修会の資料を掲示板などに載せ、校内でも共有できるようにする。 ・関係機関との連携で決まったことや指導を受けたことが日々の指導に活かしていけるよう、各学部の校内支援担当が中心になって、その後の経過について様子を聞いて把握したり、必要に応じて再検討の場を設けたりする。
	文化部	○全校・全職員の共通理解の下、感染症対策を取りながら、わくわくフェスタを安全かつ効果的に運営する。	○随時、情報発信に努め、情報共有・共通理解を図ることができた。しかし、実際の運営面では、例年とは異なる取り組みをする中で、予想外の事態も生じ、スムーズにいかない場面があった。	・わくわくフェスタ全体の流れや担当する仕事内容を把握しながら、安全かつ効果的に運営したり、発表したりすることができたことと全校の児童生徒職員の7割以上が感じている。	・わくわくフェスタに関する情報を分かりやすく整理した上で情報共有データベース上で適宜提供し、全職員で早め共通理解する。	・昨年度の実情を考慮し、感染症対応の観点に立った早期の計画、情報共有・発信に努めているが、各学部との連絡調整に時間がかかった。	C	・全職員で共通理解が図れるよう、記録写真やデータベースの活用、文化部と各学部担当者との連絡調整等に引き続き努める。 ・また、各学部担当者は進行状況が分かるようにデータベースに適宜記入し、全職員に周知する。
	キャリア教育部	○本校の進路・キャリア教育の取り組みや収集した情報の発信	○コロナウイルス感染症に対応した職場体験・施設利用体験の実施方法を検討し、準備を進める必要がある。 ○本校のキャリア教育の基本的な考え方について理解するために、教職員研修を行った。キャリア教育参観日に合わせて、進路に関する情報提供を実施したが、年度末の保護者による評価が低かった。	・進路の流れやキャリア教育・人権教育の基本的な考え方について教職員で共通理解し、実態に応じた目標を意識して指導をしている。 ・卒業生の情報、福祉サービスの状況等、進路・キャリア教育に関する情報発信に努め、保護者の肯定的評価が80%以上となる。	・校内研修(全体、学部等)を2回以上計画し、進路、キャリア教育について教職員の共通理解を深める。 ・教職員、保護者への情報提供の方法を整理し、支援部と連携して保護者へ必要な情報が伝わるよう工夫する。	・キャリア教育・人権教育に関して校内研修を3回(キャリア教育研修会、人権教育研修会、学部別研修会)実施し、教職員の共通理解が深まった。 ・保護者対象のキャリア教育研修会を実施し、福祉サービスの状況や福祉制度について情報提供をした。保護者による学校自己評価アンケートの進路に関する項目の肯定的評価は 65%であった。	B	・今後も、学部会等で各学部のニーズに沿った、情報提供やミニ研修を組んでいく。 ・今後、卒業、進級に向けて支援会議等実施される際、関係機関や保護者との連携をさらに深めていく。
4 善の業務改善	総務部	○分掌業務、学級業務等の内容の見直し ○長時間勤務者の解消	○各分掌で業務の精選について検討しているが十分ではない。 ○学校行事の見直しと、担任、授業担当者が作成する文書の見直しが必要である。	・業務分担、業務の手順が整理されている。 ・月当たりの業務時間が令和2年度比20%削減。	・昨年度からの課題に絞って未来企画委員会において整理し、職員に周知する。	・業務分担・業務の手順について未来企画委員会で課題を明確にし、検討している。 ・月当たりの業務時間は昨年度より増加している。	C	・アンケート等で職員の意見も取り入れながら検討していく。 ・業務時間削減について個々の意識を高めるとともに、空き時間を増やすなどの取り組みを進める。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

【100%】

【80%程度】

【60%程度】

【40%程度】

【30%未満】